

## 第4期 令和2(2020)年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第1回全体会 議事概要

日 時 2020年6月26日(金) 10:00~12:00

場 所 区役所本庁舎 5階 大会議室

出席委員 毛受委員、稲葉委員、小林委員、郭委員、長谷部委員、田中委員、岩澤委員、申委員、李(香)委員、奥田委員、センブ委員、ドゥラ委員、朴委員、江副委員、金(朋)委員、盛委員、安藤委員、李(承)委員、那波委員、本多委員、平野委員、伊藤委員、國谷委員 23名

欠席委員 張委員、金(勲)委員、パウデル委員、鈴木委員、栗原委員、ディン・マイ委員、植木委員、内田委員、井上委員 9名

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 議事

#### (1) 報告書(案)について

事務局から、目次から審議の経過までを説明し、委員に諮った。その後、提言のうち、外国人相談について、委員の意見を受けて素案から変更した箇所を説明し、ご意見をいただいた。

- ・新型コロナウイルス感染症の関係で難しいが、外国人コミュニティとはSNSだけでなく直接会って関係を作ると良い。
- ・今回の新型コロナウイルス感染症のことで、給付金や助成金などについて外国の方たちが相談する窓口がなく困った。プラザには、申請書をどう書くのかなどいろいろな相談に乗ってもらいたい。
- ・今回のように、普段なら相談に行けるところが行けなくなるということが起こるということを学んだ。ネパール人は、特別定額給付金のチェック欄を勘違いしたり、他の給付金が申し込みできなかつたりして困っていた。こういう時のために、事前に相談窓口を用意しておく重要性を学んだ。
- ・学生さんの中には、家賃の証明書をもらいたいとその書類も書けないという問題が出ている。
- ・外国人相談の(1)に、専門機関へつなぐ第一次的な窓口を提供するといった表現があるといい。
- ・外国人コミュニティがあっても、相談できる人がいるかどうかで対応が異なると感じた。韓国人は、東京都の感染拡大防止協力金や持続化給付金の申し込み方法を教えてくれるなど、コミュニティ内の対応があった。外国人による外国人相談体制を支援するといった内容の文言の追加を検討して欲しい。
- ・どこまでプラザでできるかはわからないが、普段から相談員が外国人の相談会に出かけて顔をつなげておくことで、ハイジアの11階にあるプラザに相談に来てもらいやすくなるのではないかな。

#### (2) 提言中、日本語学習支援、情報提供、イベント開催について

事務局から委員の意見を受けて素案から変更した箇所を説明し、委員のご意見をいただいた。

- ・素案に対する意見は、地域で実施されている日本語教室はお互いに連携して欲しいこと、区が実施する日本語教室が一番困っている人に提供できるものであってほしいことという趣旨だ。
- ・行政の日本語教室は、特に困っている初級者向けに重点を置くといった表現にして欲しい。
- ・緊急事態宣言の間、教室に通えないということがあった。今後は遠隔授業での日本語学習支援も入れてもいいのではないかと感じる。
- ・日本語学習のオンライン授業は訓練された専門の先生でなければ難しいので、ボランティアで日本語を教える方はこれから考えなければいけないと感じる。
- ・大学の先生でもオンライン授業は苦勞されながらやっている。まして日本語教室のボランティアの方はITに強くない高齢の方もいらっしゃることから、いきなりオンラインでの実施は難しい。今後考えてほしい。
- ・今の日本語教室の先生は、交流したり複数で教えたりしておりオンラインは想定していない。オンラインで日本語教室を開催するためには、オンラインで教えることを前提に先生を集める必要性など十分な議論をする必要があり、今回の提言に書ける段階までは至っていないと感じる。
- ・オンラインの日本語教室は、要検討という方向性でまとめて欲しい。
- ・外国人と共生していくという意識を高めていくために、日本人と外国人の交流促進を目的としたということが伝わる表現にして欲しい。

(3) 提言中、ネットワーク機能の充実及び周辺民間団体との関わり、多文化共生意識の醸成について事務局から委員の意見を受けて素案から変更した箇所を説明し、委員のご意見をいただいた。

- ・多文化共生意識の醸成のためには、特に日本人側に働きかけていくことが必要である。
- ・国際交流も大事だが在日外国人に対する差別の問題なども相互理解にとって重要である。
- ・本当は、そもそも外国人とは何を指すのか、国籍なのか出自なのかというところから考えるべきだと思う。日本人も外国人も同じだという言葉は表面的だと感じる。
- ・多文化共生意識の醸成は、プラザだけではなくて、いろいろな団体とつながりながらやってほしい。
- ・多文化共生意識の醸成について、イベントを開催するとか具体的なものを例示して欲しい。
- ・プラザの役割として、対象とする人を絞って考えるべきである。
- ・多文化共生連絡会の参加団体に積極的に関わってもらうなど、機能を強化し、活用して欲しい。
- ・大久保フェスタというお祭りでいろんな国の方々とつながり、韓国の方々から、給付金などのさまざまな情報を教えてもらった。日本人と外国人だけでなく、いろいろな国の外国人同士のつながりを作ることも力を入れて欲しい。

(4) 提言中、プラザの運営について、事務局から委員の意見を受けて素案から変更した箇所を説明し、委員のご意見をいただいた。

- ・多文化共生の専門性と経験を有する職員を配置する、築いてきた団体との信頼関係やネットワークをつないで行ける専従的な人を配置するなどして、機能強化して欲しい。
- ・多文化共生に関わるさまざまな団体の力を活かした運営を検討して欲しい。
- ・利用者が減っている理由には、アクセスの問題もあると思われる。もう少しアクセスしやすい場所への移転を考えて欲しい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策でプラザが閉まっていた。そういう時には外国人の方たちを相手に仕事としている団体などと連携して、民間の力も借りて相談対応をして欲しい。
- ・「おわりに」の中で触れている、私たちはコロナの問題についてはこんな形で議論したという文は、私はここに書いてあるとおりの気持ちだったことを申しあげたい。
- ・外国人の方はどんどん増えているわけなので、それに沿った形で人材を適切に増強するということを、運営体制のところに入れていただきたい。
- ・オンライン化などは、もう少し慎重に議論すべきだが、一方で在住外国人にとっては、対面での相談や日本語学習支援が難しいという状況に直面したという趣旨のことを入れて欲しい。
- ・提言の最初の部分に、新宿区における多文化共生のさらなる推進のために、ますますプラザがその中心としての役割、とりわけコーディネート機能を十分に発揮すること、という文章を入れるのも一つの案だと思う。
- ・報告書に、もう少し具体的にやること、やるべきことを書き込んで欲しい。
- ・できるだけ外国人が相談しやすい環境を作る方向で考えて欲しい

#### (5) 次回の日程

事務局から次回会議の日程（2020年8月28日）について説明があった。

#### 4 閉会